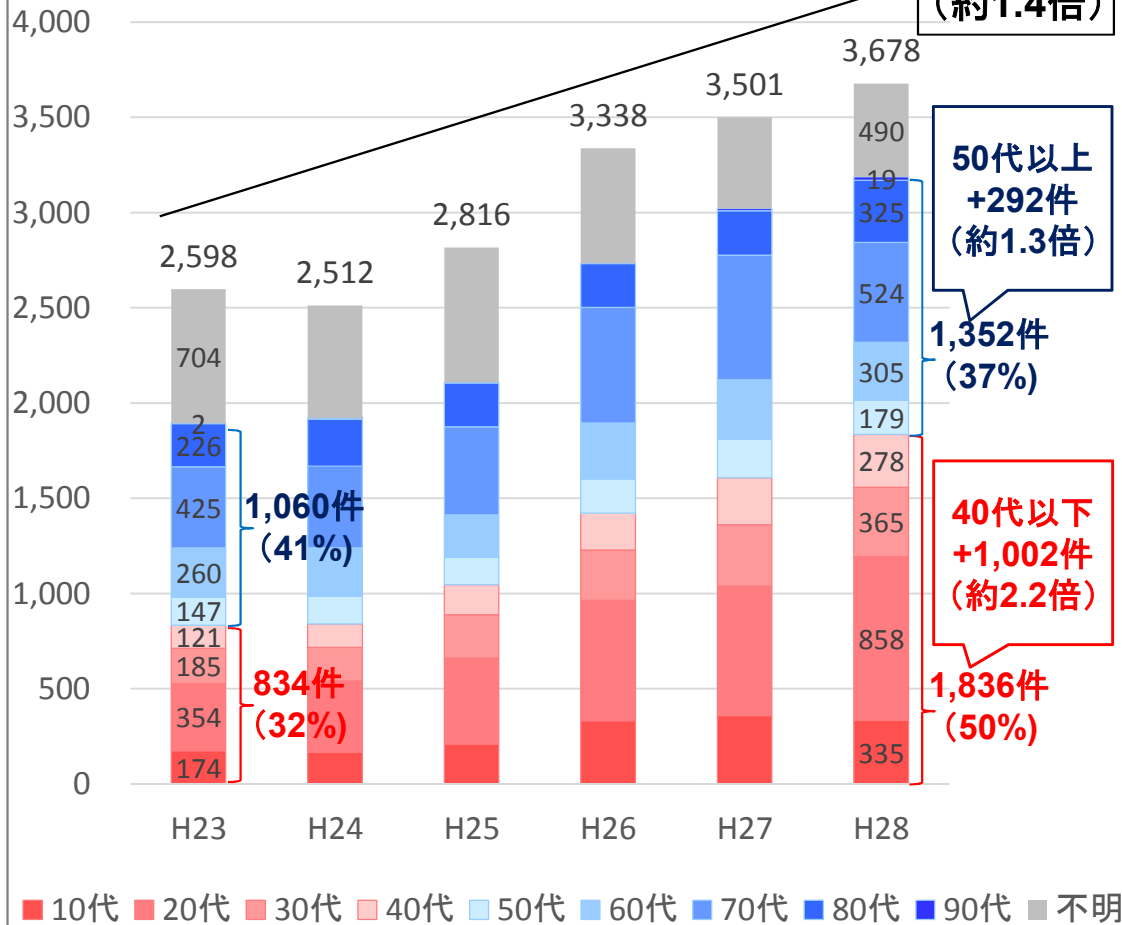


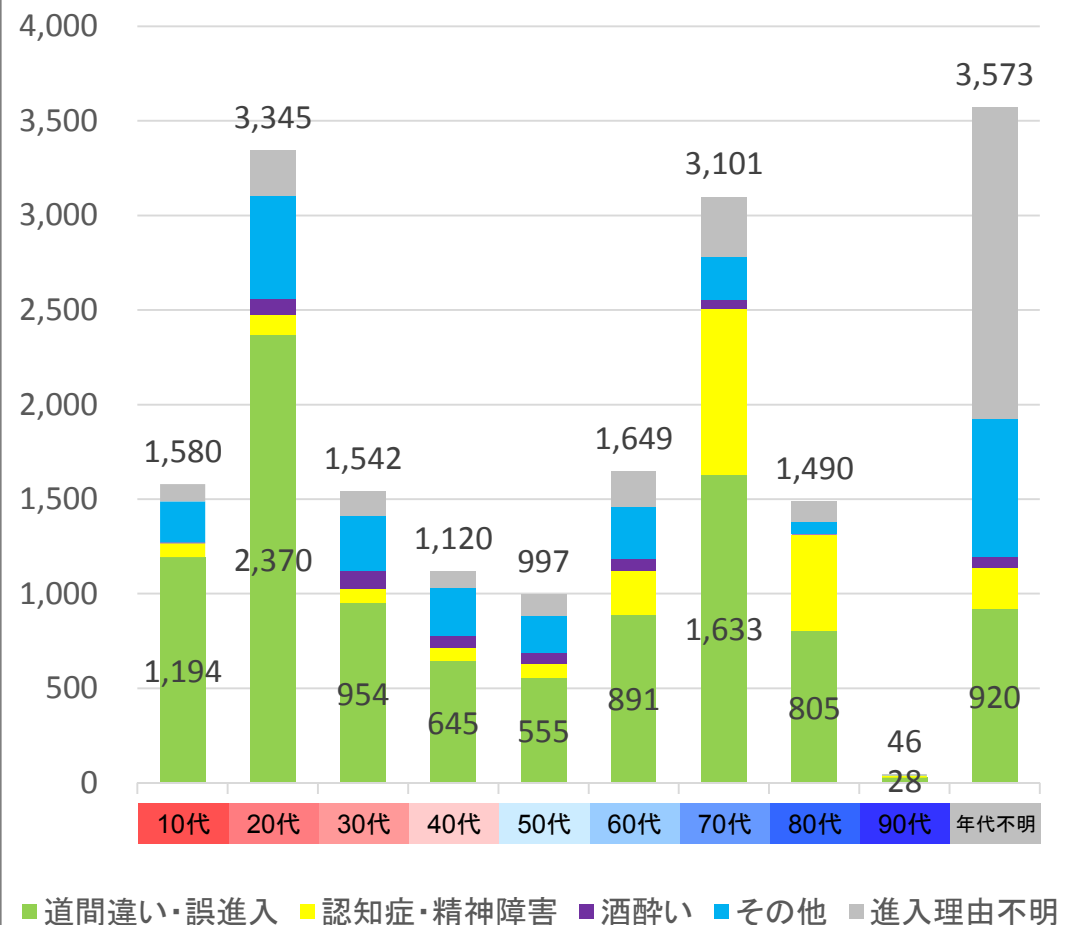
【参考】高速道路への歩行者・自転車等の進入発生状況

- 高速道路への歩行者等の進入件数は、年々増加傾向にある。
- 特に若年層で大きく増加しており、40代以下は5年間で2倍以上。
- 20代の進入が最も多く、うち7割が「道間違い・誤進入」によるもの。

進入発生状況(H23～H28年度)

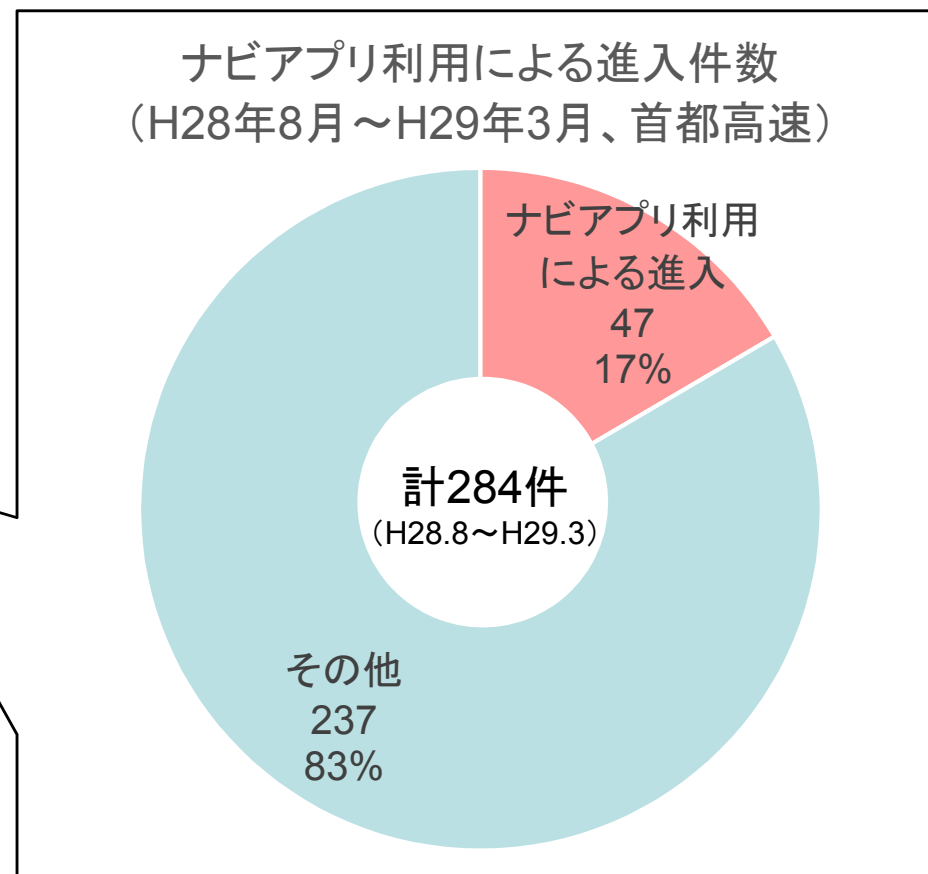
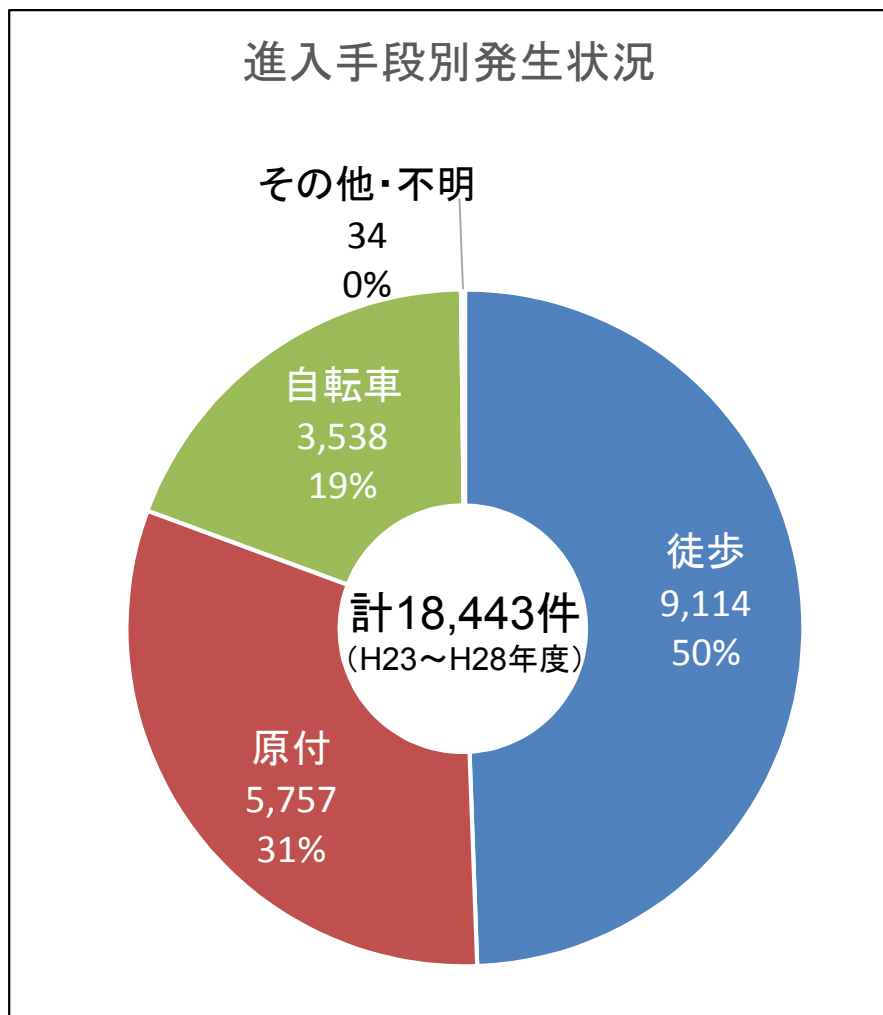


年代別進入発生状況(H23～28年度)



※確保件数及び事故発生件数。高速道路会社調べ

- 進入手段は徒歩が全体の半分、残りを原付と自転車が占める。
- 首都高速で発生した進入のうち、約2割弱はナビアプリ利用によるもの。
(首都高では、平成28年度に聞き取り調査を実施)



【参考】高速道路への歩行者・自転車等の進入発生状況

歩行者が高速道路出入り口と認識できるよう、下記の対策を実施。

- 一般街路にラバーポールを設置し、物理的に進入を防止。
- 大型注意喚起看板や横断幕等による、高速道路出入り口の視認性向上。
- 監視カメラを設置し、進入者を検知したら回転灯で警告。

○対策例

大型注意喚起看板または横断幕



立入禁止看板 路面矢印、文字 ラバーポール

首都高速での対策事例(都心環状線 芝公園(内)出口)

カメラ(進入者検知用)



立入禁止看板



ラバーポール

カラー路面シール

警告回転灯 NEXCO東日本での対策事例(第三京浜 玉川IC)